

# ONLY 1 オンリーワン 企業紹介



道の駅おおゆでは約600個(4m級、30本相当)の円筒LVLが使用されている。

## 「円筒LVL」が秘める新たな可能性の“わ”

### 株式会社 渡辺事業所

#### 強さとぬくもりを感じる木質新材料

2018年4月、鹿角市にオープンした「道の駅おおゆ」。“和の大家”と呼ばれる世界的に有名な建築家・隈研吾氏が意匠を凝らした施設内で一際目を引く装飾品が渡辺事業所の提供した円筒LVL(Laminated Veneer Lumber)だ。

円筒LVLは紙管の製造に用いられるスパイラルワインディング法を応用した円筒状の構造材で、秋田県立大学木材高度加工研究所(木高研)が約20年前に開発し、渡辺事業所に技術移転されたもの。中空ながらも従来の柱材と同等の弾性率と強度を誇り、これまでも渡辺事業所では一般住宅や寺社、学校等、全国各地の様々な場所に提供してきた。

しかし使用方法はいずれも“柱”が中心。今回「道の駅おおゆ」で“装飾”をメインに活用されたことは、“木材が持つ可能性”を追い求めてきた同社にとって大きな転換点となった。

「柱材の代替品としか考えていなかったものが、道の駅ではたくさんの“わ”が組み合わせたり意匠として機能していた。こんな使い方もあるのかと気づかされました」。



#### 木都・能代から木材で紡ぐ未来

“縫い”“巻き”“重ね”“圧縮”し、円筒LVLは製造される。どの工程でも少しでも綻びがあれば使用できない厳しい品質基準。開発は木高研だが、それを引き継ぎ自在に加工する技術を育て上げたのは渡辺事業所の努力によるものだ。

「特に道の駅のプロジェクでは、仕上げの塗装をせず“木のぬくもり”を感じる仕上がりにしなければいけませんでした。単板を製造する際に糸で木を縫う作業があるのですが、縫い合わせの間隔も意匠となるため、苦勞しました」。

細やかな注文にも確かな技術力で応えた分、反響も大きい。現在、大手との共同研究も進んでおり、20年前に生み出された技術は着実にステップアップを重ねている。

「実現してみたいアイデアの幅も広がっています。円筒LVLを更に改良しながら、木材加工の新しい道に挑戦していきたいですね」。



渡辺 恒

Hisashi Watanabe

#### 株式会社 渡辺事業所

〒016-0171

秋田県能代市河戸川字下大須賀74番地1

TEL. 0185-52-4501

[https://peraichi.com/landing\\_pages/view/noshiro-watanabe](https://peraichi.com/landing_pages/view/noshiro-watanabe)

#### 会社概要

1955年設立。天然秋田杉や神代杉を中心とした木材の製造加工を手掛ける。

